平　成　18　年　度
学生生活調査結果の概要

まえがき

この「学生生活調査」は，学生の標準的な学生生活状況を把握し，学生生活支援事業の改善を図るための基礎資料を得ることを目的として，平成14年度まで文部科学省において隔年に実施されていましたが，平成16年４月に独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）が設立されたことに伴い，文部科学省から日本学生支援機構に業務が移管されました。

このたび，平成18年度の調査結果をとりまとめましたので，主に大学昼間部及び大学院を中心に前回調査（平成16年度）との比較を行いながら，その調査の概要を説明します。

今回の調査は，前回調査と同様に大学学部，短期大学本科及び大学院の学生（休学者及び外国人学生を除く。）を調査対象とし，各種の条件下における学生の標準的な学生生活費とこれを支える家庭の経済状況，学生のアルバイト従事状況など学生生活状況を把握することを主眼として，全国2,961,116人中から65,043人を抽出し，平成18年11月現在で実施したものです。

また，今回の調査から大学院専門職学位課程の学生も調査対象とするとともに，学生生活の多様化に伴い新たに生活時間の状況を調査項目として設けています。調査の方法としては，大学・短期大学の別，昼間部・夜間部の別，大学院修士課程・博士課程・専門職学位課程の別，設置者（国公私立）の別に従ってそれぞれ抽出率を定め，サンプル数を算出し，在籍学生数に比例して各大学，短期大学にサンプル数を割り当てて調査を依頼しました。有効回答数は33,180人（回収率は51.0％）で，本文に紹介する資料に掲げる数値は，この標本調査の結果を基礎として，全国の調査対象学生総数についての数値を推定した結果となっています。

学生生活に伴う問題は広範かつ複雑であって，この調査で取り上げたことに尽きるものではありませんが，この調査結果が学生生活に関心を寄せられる方々の参考になれば幸いです。

終わりに，平成18年度調査の実施に際し，多大なご協力をいただいた全国各大学及び各短期大学の皆様に深く感謝申し上げます。

独立行政法人　日本学生支援機構
政策企画部　政策調査研究課

＜ 学生生活費等について ＞

大学教育を受けるのに年間どれだけの経費がかかっているかを知るため，学生生活を送るために不可欠な要素としての学費と生活費を取り上げ，これを学生生活費としてその実態をみることとする。

ここに取り上げた「学費」とは，授業料，その他の学校納付金（入学料や入学時にのみ支払う施設設備費などの一時的納付金を除く。），図書，学用品等に要する修学費，課外活動費及び通学費をいい，「生活費」とは，食費，住居・光熱費，保健衛生費，娯楽・し好費及びその他の日常費をいう。用語の定義，年間収入の取り方等については，後掲の《資料２》調査票の「調査項目の説明」を参照されたい。

また，この調査における大学院の「修士課程」，「博士課程」は次の区分によるものである。「修士課程」とは，(1)修士課程，(2)博士課程前期，(3)一貫制博士課程の前期２年とする。「博士課程」とは，(1)医・歯・獣医学系博士課程，(2)博士課程後期，(3)一貫制博士課程の後期３年とする。なお，「専門職学位課程」は法科大学院を含む。

学生生活費は，大学・短期大学別，昼間部・夜間部別，大学院修士課程・博士課程・専門職学位課程別，設置者別あるいは居住形態別等学生の置かれている条件の違いによって大きく影響されるので，以下，いくつかの基本的な条件について集計分析を行っているが，解説は主として大学昼間部及び大学院について行うことにする。

本調査結果における留意事項
1．四捨五入した数を使用している表では，内訳の数の合計が，合計欄の数と一致しない場合がある。
2．平成14年度までは文部科学省が調査を実施した。
3．大学院専門職学位課程については，平成18年度より調査対象とした。
4．表中の記号は次のように使う。
「－」　計数が無い場合
「0.0」　計数が単位未満の場合
「…」　計数の出現が有り得ない場合または調査対象とならなかった場合

１．　学生生活費

（１）年間学生生活費（Ａ表）

年間の学生生活費は，次のようになっている。

①大学昼間部等

大学昼間部は約190万円，短期大学昼間部は約164万円となっている。これを平成16年度調査と比較すると，大学昼間部で2.4％減，短期大学昼間部で1.5％減となっている。

なお，夜間部の学生生活費は，昼間部に比べ大学で約41万円，短期大学で約43万円低く，また，平成16年度調査と比較すると，大学で1.9％減，短期大学で12.4％減となっている。

②大学院

修士課程は約175万円，博士課程は約208万円で，博士課程が修士課程を約33万円上回っている。これを平成16年度調査と比較すると，修士課程で1.3%減，博士課程で1.1%減となっている。また，専門職学位課程は約231万円で，修士課程，博士課程を上回っている。

A表　年間学生生活費

（単位：円）

区分		大学		短期大学		大学院		
		昼間部	夜間部	昼間部	夜間部	修士課程	博士課程	専門職学位課程
学費	授業料	810,800	561,100	676,900	374,600	592,600	502,400	991,500
	その他の学校納付金	197,600	83,100	280,300	136,600	55,800	27,700	94,200
	修学費	49,300	40,000	56,900	36,800	58,300	128,400	141,500
	課外活動費	43,100	28,900	18,500	10,400	33,900	60,700	19,800
	通学費	70,500	71,800	80,200	66,800	71,100	85,000	75,400
	計	1,171,300	784,900	1,112,800	625,200	811,700	804,200	1,322,400
生活費	食費	190,800	183,500	113,500	139,000	279,400	387,800	307,400
	住居・光熱費	235,200	200,100	132,700	117,800	335,200	430,600	313,900
	保健衛生費	41,900	40,300	44,400	51,800	44,700	63,800	57,300
	娯楽し好費	133,800	148,800	104,100	137,100	147,500	187,900	137,600
	その他の日常品費	122,100	125,400	132,700	137,400	131,300	207,100	167,400
	計	723,800	698,100	527,400	583,100	938,100	1,277,200	983,600
合計		(△2.4) 1,895,100	(△1.9) 1,483,000	(△1.5) 1,640,200	(△12.4) 1,208,300	(△1.3) 1,749,800	(△1.1) 2,081,400	2,306,000
参考	平成16年度	1,940,800	1,511,100	1,664,700	1,379,600	1,772,600	2,105,400	・・・
	平成14年度	2,017,700	1,553,900	1,785,100	1,462,800	1,825,400	2,156,900	・・・
	平成12年度	2,058,200	1,693,800	1,792,400	1,495,600	1,898,000	2,248,000	・・・

（注）（　）は，平成16年度調査からの伸び率である。

（2）学生生活費の推移（B表，第1図）

①大学昼間部

学生生活費の前回調査からの伸び率は，平成16年度調査においては3.8%減となったが，今回調査においても引き続き2.4%減となっている。これを学費と生活費とに分けて，その伸び率をみると，学費は0.2%増，生活費は6.3%減であった。

②大学院

前回調査からの伸び率は，修士課程で1.3%減，博士課程で1.1%減となっている。学費と生活費に分けてその伸び率をみると，学費は修士課程，博士課程それぞれ2.0%増，3.0%増，生活費は修士課程，博士課程それぞれ4.0%減，3.6%減であった。

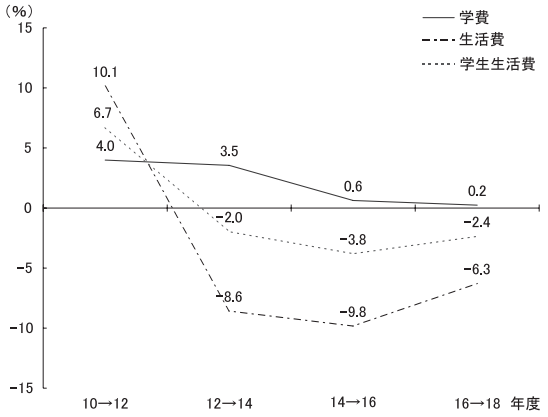
B表　学生生活費の推移

（単位：円）

区分			年度	平成12年度	平成14年度	平成16年度	平成18年度
大学	昼間部	学費	授業料及びその他の学校納付金	(5.2) 958,500	(3.2) 988,800	(0.9) 997,300	(1.1) 1,008,400
			修学費，課外活動費，通学費	(△2.5) 162,900	(5.8) 172,400	(△0.7) 171,200	(△4.8) 162,900
			計	(4.0) 1,121,400	(3.5) 1,161,200	(0.6) 1,168,500	(0.2) 1,171,300
		生活費	食費，住居・光熱費	(6.0) 540,700	(△10.5) 484,000	(△7.2) 449,000	(△5.1) 426,000
			日常費（保健衛生費，娯楽し好費等）	(16.4) 396,100	(△6.0) 372,500	(△13.2) 323,300	(△7.9) 297,800
			計	(10.1) 936,800	(△8.6) 856,500	(△9.8) 772,300	(△6.3) 723,800
		合計		(6.7) 2,058,200	(△2.0) 2,017,700	(△3.8) 1,940,800	(△2.4) 1,895,100
大学院	修士課程	学費	授業料及びその他の学校納付金	(3.5) 584,200	(4.3) 609,100	(3.9) 632,900	(2.4) 648,400
			修学費，課外活動費，通学費	(△5.2) 167,900	(2.9) 172,700	(△5.8) 162,700	(0.4) 163,300
			計	(1.4) 752,100	(3.9) 781,800	(1.8) 795,600	(2.0) 811,700
		生活費	食費，住居・光熱費	(6.6) 730,200	(△10.2) 656,000	(△2.3) 641,000	(△4.1) 614,600
			日常費（保健衛生費，娯楽し好費等）	(19.0) 415,700	(△6.8) 387,600	(△13.3) 336,000	(△3.7) 323,500
			計	(10.8) 1,145,900	(△8.9) 1,043,600	(△6.4) 977,000	(△4.0) 938,100
		合計		(6.9) 1,898,000	(△3.8) 1,825,400	(△2.9) 1,772,600	(△1.3) 1,749,800
	博士課程	学費	授業料及びその他の学校納付金	(5.7) 457,100	(7.4) 490,700	(7.4) 527,000	(0.6) 530,100
			修学費，課外活動費，通学費	(△4.5) 283,800	(△2.2) 277,500	(△8.7) 253,400	(8.2) 274,100
			計	(1.5) 740,900	(3.7) 768,200	(1.6) 780,400	(3.0) 804,200
		生活費	食費，住居・光熱費	(3.8) 960,400	(△6.8) 894,800	(△3.3) 865,600	(△5.5) 818,400
			日常費（保健衛生費，娯楽し好費等）	(13.0) 546,700	(△9.7) 493,900	(△7.0) 459,400	(△0.1) 458,800
			計	(6.9) 1,507,100	(△7.9) 1,388,700	(△4.6) 1,325,000	(△3.6) 1,277,200
		合計		(5.1) 2,248,000	(△4.1) 2,156,900	(△2.4) 2,105,400	(△1.1) 2,081,400
	専門職学位課程	学費	授業料及びその他の学校納付金	・・・	・・・	・・・	1,085,700
			修学費，課外活動費，通学費	・・・	・・・	・・・	236,700
			計	・・・	・・・	・・・	1,322,400
		生活費	食費，住居・光熱費	・・・	・・・	・・・	621,300
			日常費（保健衛生費，娯楽し好費等）	・・・	・・・	・・・	362,300
			計	・・・	・・・	・・・	983,600
		合計		・・・	・・・	・・・	2,306,000
家計消費支出指数（年度）				(△3.0) 97.0	(△4.0) 93.2	(△0.4) 92.8	(△2.5) 90.4
消費者物価指数（年度）				(△1.1) 98.9	(△1.6) 97.3	(△0.3) 97.0	(0.0) 97.0

（注）1．（　）は，それぞれ前回調査からの伸び率である。
2．家計消費支出指数及び消費者物価指数について，平成10年度の指数を100とする。
3．家計消費支出指数及び消費者物価指数は，総務省家計調査の結果等より算出。

第１図　学生生活費の伸び率の推移（大学昼間部）



（３）設置者別の学生生活費（Ｃ表）

学生生活費を設置者別で比較すると，次のようになっている。

①大学昼間部等

学費と生活費を合わせた学生生活費は，大学昼間部で国立より私立が約52万円高くなっている。これは学費の差によるところが大きい。

短期大学昼間部についても，学費の差によって公立より私立が高くなっている。

また，夜間部の場合も昼間部と同様に私立が高くなっているが，学費は昼間部に比べ全体的に低くなっている。

②大学院

学費と生活費を合わせた学生生活費は，私立が国立より修士課程で約31万円，博士課程で約28万円，専門職学位課程で約47万円高くなっている。

学費は私立が国立より修士課程で約45万円，博士課程で約33万円，専門職学位課程で約62万円高くなっている。生活費は，修士課程で，国立が私立に比べ約14万円，博士課程で約４万円，専門職学位課程で約16万円高くなっている。

Ｃ表　設置者別の学生生活費

（単位：円）

区分			学費			生活費			合計
			授業料，その他の学校納付金	修学費，課外活動費，通学費	小計	食費，住居，光熱費	保健衛生費，娯楽し好費，その他の日常費	小計	
大学学部	昼間部	国立	512,700	141,400	654,100	566,400	280,400	846,800	1,500,900
		公立	523,500	142,000	665,500	456,100	274,600	730,700	1,396,200
		私立	1,153,900	169,300	1,323,200	390,800	303,200	694,000	2,017,200
		平均	1,008,400	162,900	1,171,300	426,000	297,800	723,800	1,895,100
	夜間部	国立	264,800	125,500	390,300	414,000	342,500	756,500	1,146,800
		公立	281,800	137,800	419,600	371,500	313,300	684,800	1,104,400
		私立	750,500	144,100	894,600	378,300	308,800	687,100	1,581,700
		平均	644,200	140,700	784,900	383,600	314,500	698,100	1,483,000
短期大学	昼間部	国立	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・
		公立	409,200	114,400	523,600	348,400	262,500	610,900	1,134,500
		私立	989,900	158,000	1,147,900	240,100	282,300	522,400	1,670,300
		平均	957,200	155,600	1,112,800	246,200	281,200	527,400	1,640,200
	夜間部	国立	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・
		公立	199,300	78,800	278,100	171,600	243,100	414,700	692,800
		私立	582,100	122,000	704,100	276,200	345,300	621,500	1,325,600
		平均	511,200	114,000	625,200	256,800	326,300	583,100	1,208,300
大学院	修士課程	国立	502,500	143,800	646,300	680,700	315,600	996,300	1,642,600
		公立	521,300	177,600	698,900	533,600	310,000	843,600	1,542,500
		私立	899,800	191,900	1,091,700	521,600	338,100	859,700	1,951,400
		平均	648,400	163,300	811,700	614,600	323,500	938,100	1,749,800
	博士課程	国立	467,100	254,800	721,900	851,800	443,200	1,295,000	2,016,900
		公立	497,700	297,000	794,700	687,400	471,400	1,158,800	1,953,500
		私立	723,700	326,500	1,050,200	747,600	502,500	1,250,100	2,300,300
		平均	530,100	274,100	804,200	818,400	458,800	1,277,200	2,081,400
	専門職学位課程	国立	693,200	215,700	908,900	729,200	363,000	1,092,200	2,001,100
		公立	615,200	226,000	841,200	485,000	366,800	851,800	1,693,000
		私立	1,283,300	246,900	1,530,200	574,800	361,900	936,700	2,466,900
		平均	1,085,700	236,700	1,322,400	621,300	362,300	983,600	2,306,000

（４）居住形態別の学生数の割合（Ｄ表）

居住形態別学生数の割合は，大学昼間部の平均で自宅51.5%，学寮5.6%，下宿・アパート・その他（以下，「下宿等」という）42.9%である。

なお，自宅通学者は，私立では56.8%を占めているのに対し，国立，公立ではそれぞれ31.6%，40.8%と低くなっている。

また，大学院については，修士課程の平均で自宅42.1%，学寮3.2%，下宿等54.7%，博士課程の平均で自宅41.8%，学寮2.3%，下宿等55.9%，専門職学

位課程の平均で自宅56.1%，学寮2.6%，下宿等41.3%となっており，大学，短期大学，大学院専門職学位課程では自宅が最も高いが，大学院修士課程，博士課程では下宿等が最も高くなっている。

D表　居住形態別学生数の割合

（単位：%）

区分			自宅	学寮	下宿等	計
大学	昼間部	国立	31.6	6.8	61.6	100.0
		公立	40.8	2.2	57.0	100.0
		私立	56.8	5.5	37.6	100.0
		平均	51.5	5.6	42.9	100.0
	夜間部		58.5	3.9	37.6	100.0
短期大学	昼間部		69.2	7.7	23.1	100.0
	夜間部		68.7	0.8	30.5	100.0
大学院	修士課程	国立	32.2	4.4	63.4	100.0
		公立	50.4	2.6	47.0	100.0
		私立	56.0	1.4	42.6	100.0
		平均	42.1	3.2	54.7	100.0
	博士課程	国立	36.9	2.9	60.2	100.0
		公立	53.0	2.3	44.7	100.0
		私立	53.2	0.5	46.3	100.0
		平均	41.8	2.3	55.9	100.0
	専門職学位課程	国立	41.8	2.9	55.3	100.0
		公立	66.1	—	33.9	100.0
		私立	62.3	2.5	35.2	100.0
		平均	56.1	2.6	41.3	100.0

（5）居住形態別の学生生活費（E表，第2図）

①大学昼間部

居住形態別の学生生活費は，国・公・私立を通じて下宿等の通学者が最も高く，自宅通学者の学生生活費の1.4～1.7倍となり，その差は，国立約72万円，公立約57万円，私立約75万円となっている。学寮通学者の場合は，国・公・私立とも自宅通学者と下宿等通学者の中間にあって，自宅通学者の1.1～1.3倍となり，その差は，国立約15万円，公立・私立ともに約32万円となっている。

E表　居住形態別学生生活費

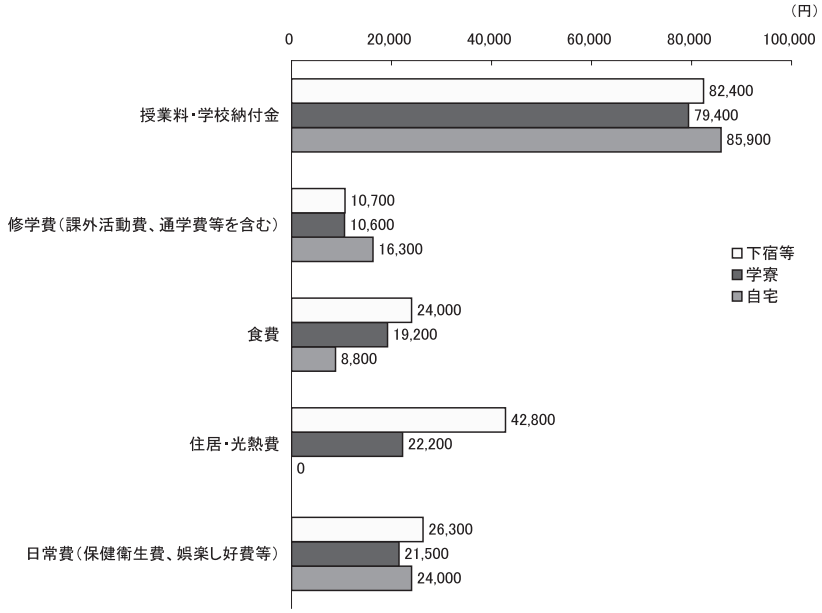
（単位：円）

区分			自宅	学寮	下宿等
大学	昼間部	国立	1,045,100 (100)	1,191,100 (114)	1,769,000 (169)
		公立	1,063,200 (102)	1,384,500 (132)	1,635,600 (157)
		私立	1,717,900 (164)	2,033,400 (195)	2,467,200 (236)
		平均	1,619,100	1,835,600	2,234,500
大学院	修士課程	国立	1,177,600 (100)	1,419,400 (121)	1,872,100 (159)
		公立	1,182,400 (100)	1,354,700 (115)	1,886,500 (160)
		私立	1,587,100 (135)	1,933,400 (164)	2,389,400 (203)
		平均	1,380,000	1,498,600	2,020,700
	博士課程	国立	1,586,500 (100)	1,606,300 (101)	2,219,000 (140)
		公立	1,637,400 (103)	1,578,800 (100)	2,232,500 (141)
		私立	1,875,900 (118)	2,158,500 (136)	2,675,900 (169)
		平均	1,685,700	1,631,300	2,310,600
	専門職学位課程	国立	1,558,800 (100)	1,482,500 (95)	2,288,200 (147)
		公立	1,350,500 (87)	— —	2,277,100 (146)
		私立	2,104,300 (135)	2,317,200 (149)	2,997,000 (192)
		平均	1,965,100	2,035,800	2,694,900

（注）（　　）は，国立の自宅を基準（100）とした場合の指数である。

自宅通学者と学寮，下宿等通学者の学生生活費の差は，主として食費及び住居・光熱費の差によるものであり，これを大学昼間部の平均を例にとって月額で示したのが第2図である。

第2図　居住形態別学生生活費の支出状況（月額）〔大学昼間部平均〕



（注）自宅生は住居・光熱費のデータなし。

食費及び住居・光熱費について，下宿等通学者と学寮通学者を比較すると，下宿等通学者の方が，食費で月額約５千円，住居・光熱費で月額約２万１千円多くなっている。

修学費（課外活動費，通学費を含む。）については，自宅通学者が最も高くなっているが，これは自宅通学者の通学費が最も高いことによるものである。

②大学院

修士課程では，下宿等通学者の学生生活費は，自宅通学者の1.5～1.6倍で，その差は，約69～80万円となっている。

また，博士課程では，下宿等通学者の学生生活費は自宅通学者の1.4倍で，その差は，約60万円～80万円となっている。

専門職学位課程では，下宿等通学者の学生生活費は，自宅通学者の1.4～1.7倍で，その差は，約73～93万円となっている。

（６）地域別・居住形態別学生生活費（Ｆ表，第３図）

大学昼間部について学生生活費を地域別に比較すると，国・公・私立全体の平均では，東京圏（「東京圏」とは，東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県をいう）が最も高く，次いで京阪神（「京阪神」とは，京都府・大阪府・兵庫県をいう），その他の地域の順となっている。設置者別・居住形態別にみると，最も高いのは私立の東京圏の下宿等通学者で約258万円となっている。

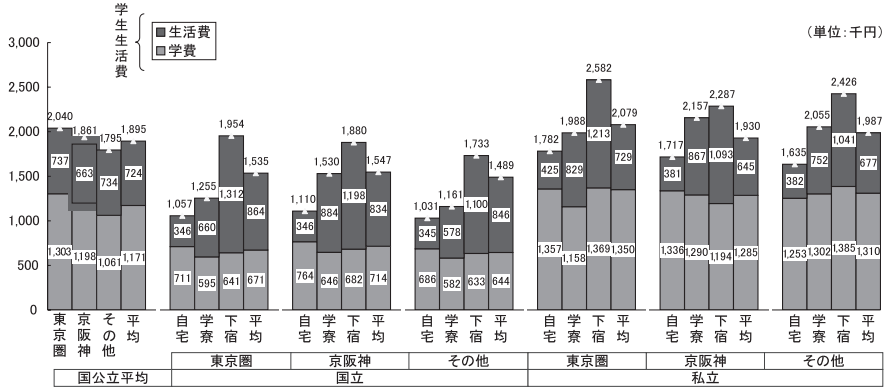
Ｆ表　地域別・居住形態別学生生活費（大学昼間部）

（単位：円）

区分		東京圏			京阪神			その他			全国平均		
		学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計
国公私立平均		1,302,700	737,400	2,040,100	1,197,900	662,700	1,860,600	1,060,700	734,400	1,795,100	1,171,300	723,800	1,895,100
国立	自宅	710,700	346,400	1,057,100	764,200	345,600	1,109,800	685,700	344,900	1,030,600	699,900	345,200	1,045,100
	学寮	594,800	659,800	1,254,600	645,600	884,400	1,530,000	582,300	578,200	1,160,500	587,400	603,700	1,191,100
	下宿等	641,400	1,312,100	1,953,500	681,800	1,197,700	1,879,500	632,900	1,099,900	1,732,800	637,900	1,131,100	1,769,000
	平均	671,400	863,900	1,535,300	713,800	833,600	1,547,400	643,800	845,500	1,489,300	654,100	846,800	1,500,900
公立	自宅	717,000	399,200	1,116,200	726,100	340,100	1,066,200	712,400	343,700	1,056,100	716,000	347,200	1,063,200
	学寮	585,400	450,100	1,035,500	698,900	709,900	1,408,800	670,500	769,200	1,439,700	668,200	716,300	1,384,500
	下宿等	595,800	1,271,800	1,867,600	628,800	986,900	1,615,700	630,200	1,000,400	1,630,600	629,200	1,006,400	1,635,600
	平均	672,700	671,300	1,344,000	690,300	585,800	1,276,100	660,100	764,000	1,424,100	665,500	730,700	1,396,200
私立	自宅	1,357,400	425,000	1,782,400	1,336,100	380,700	1,716,800	1,252,900	381,900	1,634,800	1,316,700	401,200	1,717,900
	学寮	1,158,100	829,400	1,987,500	1,290,000	866,800	2,156,800	1,302,400	752,100	2,054,500	1,234,000	799,400	2,033,400
	下宿等	1,369,400	1,212,600	2,582,000	1,193,500	1,093,400	2,286,900	1,384,900	1,040,700	2,425,600	1,346,300	1,120,900	2,467,200
	平均	1,349,800	729,200	2,079,000	1,284,900	644,800	1,929,700	1,310,300	677,100	1,987,400	1,323,200	694,000	2,017,200

（注）「東京圏」とは，東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県をいう。
「京阪神」とは，京都府・大阪府・兵庫県をいう。

第３図　地域別・居住形態別学生生活費（大学昼間部）



（７）男女別・居住形態別学生生活費（Ｇ表）

大学昼間部について居住形態別の学生生活費を男女別にみると，国立では，女子が男子を自宅通学者で約４千円（男子約104万４千円，女子約104万７千円），下宿等通学者で約１万１千円（男子約176万円５千円，女子約177万７千円）上回っている。

また，私立では，女子が男子を自宅通学者で約５万１千円（男子約169万３千円，女子約174万４千円），下宿等通学者で約２万４千円（男子約245万７千円，女子約248万１千円）上回っている。

Ｇ表　男女別・居住形態別学生生活費（大学昼間部）

（単位：円）

区分			学費			生活費			合計
			授業料 学校納付金	修学費 課外活動費 通学費	小計	食費 住居費 光熱費	保健衛生費 娯楽嗜好費 その他の日常費	小計	
国立	男	自宅	508,400	189,400	697,800	112,800	232,900	345,700	1,043,500
		学寮	484,900	108,600	593,500	380,200	262,800	643,000	1,236,500
		下宿等	522,200	124,400	646,600	837,700	280,900	1,118,600	1,765,200
	女	自宅	510,800	191,600	702,400	84,000	260,700	344,700	1,047,100
		学寮	480,100	97,900	578,000	320,200	222,600	542,800	1,120,800
		下宿等	509,300	112,700	622,000	814,600	339,900	1,154,500	1,776,500
私立	男	自宅	1,109,800	191,600	1,301,400	113,400	278,200	391,600	1,693,000
		学寮	1,070,500	157,200	1,227,700	511,900	243,600	755,500	1,983,200
		下宿等	1,225,100	133,600	1,358,700	792,500	306,000	1,098,500	2,457,200
	女	自宅	1,131,300	201,300	1,332,600	100,500	310,700	411,200	1,743,800
		学寮	1,130,800	109,900	1,240,700	569,100	277,300	846,400	2,087,100
		下宿等	1,195,400	133,600	1,329,000	804,500	347,300	1,151,800	2,480,800

（8）学年別の学生生活費（H表）

学費は，学年間で大きな差は見られないが，生活費は逆に高学年になるにつれて高くなる傾向にある。なお，大学昼間部の第5，第6学年については医・歯学部，獣医学部の学生であり，第4学年に比較して学費，生活費とも高くなっている。

H表　学年別の学生生活費

（単位：円）

区分			1年	2年	3年	4年	5年	6年
大学	昼間部	学費	1,144,700	1,166,500	1,188,600	1,161,700	1,450,000	2,335,300
		生活費	587,500	712,300	763,900	815,400	1,163,400	1,099,300
		計	1,732,200	1,878,800	1,952,500	1,977,100	2,613,400	3,434,600
短期大学	昼間部	学費	1,119,300	1,108,600	1,068,300	・・・	・・・	・・・
		生活費	473,900	568,900	657,800	・・・	・・・	・・・
		計	1,593,200	1,677,500	1,726,100	・・・	・・・	・・・
大学院	修士課程	学費	812,100	811,300	・・・	・・・	・・・	・・・
		生活費	913,100	962,600	・・・	・・・	・・・	・・・
		計	1,725,200	1,773,900	・・・	・・・	・・・	・・・
	博士課程	学費	784,100	816,000	798,000	907,100	・・・	・・・
		生活費	1,157,500	1,267,200	1,326,600	1,860,200	・・・	・・・
		計	1,941,600	2,083,200	2,124,600	2,767,300	・・・	・・・
	専門職学位課程	学費	1,334,600	1,303,300	1,332,300	・・・	・・・	・・・
		生活費	917,700	1,023,500	1,052,600	・・・	・・・	・・・
		計	2,252,300	2,326,800	2,384,900	・・・	・・・	・・・

2．学生の収入の状況（I表，第4図）

学生生活費は，家庭からの給付，奨学金及びアルバイト収入等で賄われているが，上級課程へ進むほど，家庭からの給付額が少なくなるなど収入構成に差異がある。その状況はI表，収入額内訳は第4図のとおりである。

①大学昼間部等

大学昼間部の家庭からの給付額は，国・公・私立の平均で約150万円（月額約12万5千円）であり，収入総額（約219万円）に占める家庭からの給付額の割合は68.3％となり，前回調査に比べ2.4ポイント上回っている。家庭からの給付額を設置者別にみると，私立が国・公立に比べそれぞれ約48万，約62万円上回っている。男女別にみると，女子が男子を約2万円上回っている。

なお，アルバイトによる収入は平均約34万円で，収入総額に占める割合は15.4％と，前回調査時に比べ0.3ポイント下回っている。

短期大学昼間部については，家庭からの給付額は約127万円（月額約10万6千円）で，収入総額（約191万円）に占める割合は66.5％となっている。

②大学院

修士課程の家庭からの給付額は，国・公・私立の平均で約106万円（月額約8万8千円）であり，収入総額（約208万円）に占める家庭からの給付額の割合は51.1％となっている。

また，博士課程の家庭からの給付額は，国・公・私立の平均で約52万円（月額約4万3千円）であり，収入総額（約283万円）に占める割合は18.4％と低い。

なお，奨学金及びアルバイト収入の占める割合は，家庭からの給付額が低いこともあって，58.1％と高くなっている。

専門職学位課程の家庭からの給付額は，国・公・私立の平均で約114万円（月額約9万5千円）であり，収入総額（約285万円）に占める家庭からの給付額の割合は40.0％となっている。

I表　収入及びその構成割合

（単位：円）

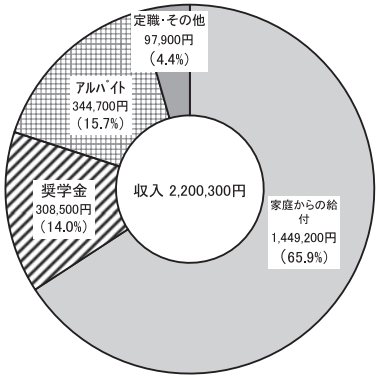
区分		家庭からの給付	奨学金	アルバイト収入	その他	収入総額
大学昼間部	国立	(65.0)	(15.7)	(16.7)	(2.5)	(100.0)
		1,129,400	273,500	290,500	44,100	1,737,500
	公立	(59.7)	(17.7)	(19.9)	(2.8)	(100.0)
		995,600	294,400	331,600	46,000	1,667,600
	私立	(69.2)	(13.2)	(14.9)	(2.6)	(100.0)
		1,611,900	307,000	347,500	61,400	2,327,800
	男	(68.0)	(13.5)	(15.8)	(2.7)	(100.0)
		1,487,100	294,300	345,100	60,100	2,186,600
	女	(68.7)	(14.0)	(14.8)	(2.5)	(100.0)
		1,507,300	307,400	325,600	54,600	2,194,900
	平均	(68.3)	(13.7)	(15.4)	(2.6)	(100.0)
		1,496,300	300,300	336,300	57,600	2,190,500
短期大学昼間部		(66.5)	(15.2)	(14.9)	(3.4)	(100.0)
		1,269,000	290,200	283,600	64,800	1,907,600
大学院	修士課程	(51.1)	(25.2)	(13.5)	(10.1)	(100.0)
		1,060,900	523,200	281,000	210,500	2,075,600
	博士課程	(18.4)	(33.5)	(24.6)	(23.4)	(100.0)
		521,200	949,900	697,600	664,100	2,832,800
	専門職学位課程	(40.0)	(29.3)	(3.6)	(27.2)	(100.0)
		1,139,500	833,700	103,000	774,000	2,850,200

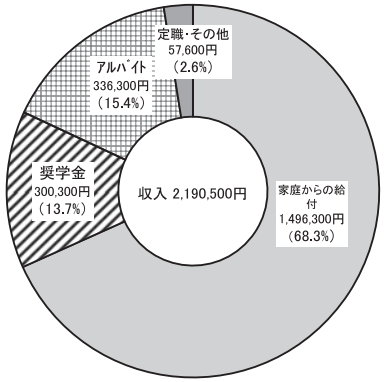
（注）（　）は，収入総額に占める割合である。

第４図　収入額内訳

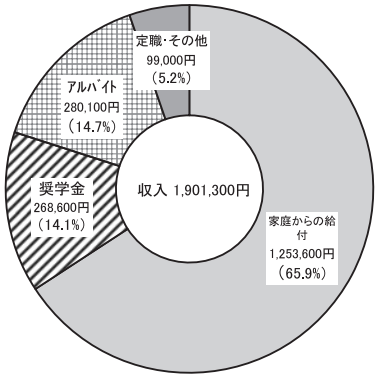
平成16年度　　平成18年度

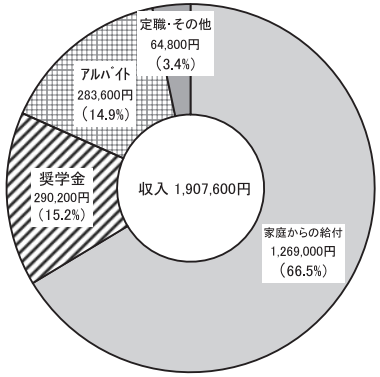
【大学学部（昼間部）】





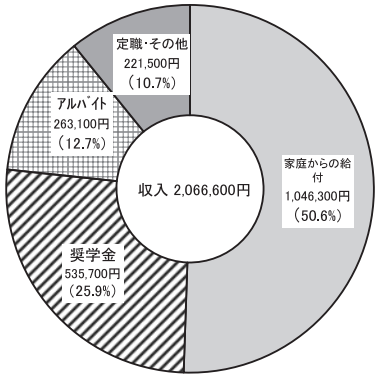
【短期大学昼間部】

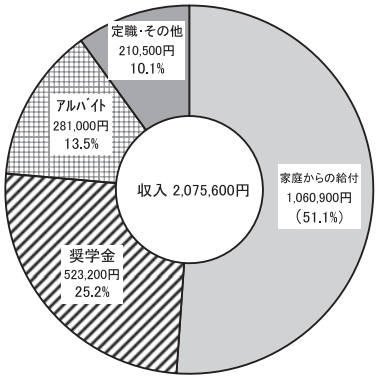




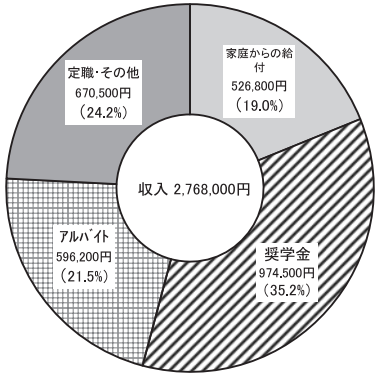
平成16年度　　平成18年度

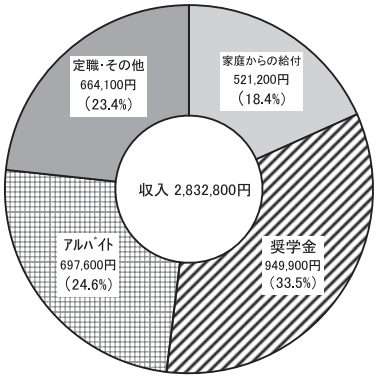
【大学院修士課程】



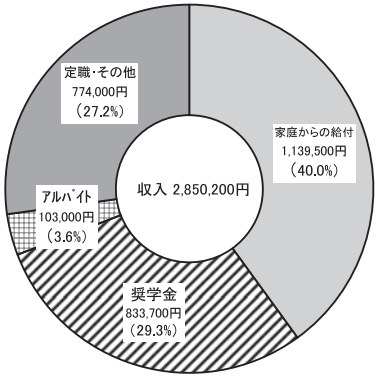


【大学院博士課程】





【大学院専門職学位課程】



3．家庭からの給付額等

（1）家庭からの給付（Ｊ表，Ｋ表）

大学・短期大学の昼間部における家庭からの給付は，その額では大学（約149万６千円）が短期大学（約126万９千円）より約23万円多く，学生生活費に占める割合も大学が79.0%，短期大学が77.4%で，大学が短期大学を1.6ポイント上回っている。

一方，大学院の学生生活費に占める家庭からの給付割合は，修士課程が60.6%，博士課程が25.0%，専門職学位課程が49.4%と大学・短期大学の昼間部に比べ低くなっている。

また，家庭の年間収入に占める家庭からの給付額の割合は，大学昼間部が17.7%，大学院修士課程が13.3%，博士課程が6.7%で，ここ数年間ほぼ同割合となっている。

（2）家庭の年間平均収入（Ｋ表）

学生の家庭の年間平均収入を設置者別にみると，私立が高い傾向にある。国立と私立の差をみると，大学昼間部が約73万円，修士課程が約96万円，博士課程が約238万円と，それぞれ私立が高くなっている。

Ｊ表　家庭からの給付額の推移

（単位：円）

区分		年度	平成12年度	平成14年度	平成16年度	平成18年度
大学昼間部		家庭からの給付額	1,556,000	1,556,700	1,449,200	1,496,300
		給付額／学生生活費 ×100	75.6%	77.2%	74.7%	79.0%
短期大学昼間部		家庭からの給付額	1,415,900	1,353,400	1,253,600	1,269,000
		給付額／学生生活費 ×100	79.0%	75.8%	75.3%	77.4%
大学院	修士課程	家庭からの給付額	1,129,000	1,098,300	1,046,300	1,060,900
		給付額／学生生活費 ×100	59.5%	60.2%	59.0%	60.6%
	博士課程	家庭からの給付額	525,000	539,800	526,800	521,200
		給付額／学生生活費 ×100	23.4%	25.0%	25.0%	25.0%
	専門職学位課程	家庭からの給付額	・・・	・・・	・・・	1,139,500
		給付額／学生生活費 ×100	・・・	・・・	・・・	49.4%

Ｋ表　家庭の年間平均収入

（単位：千円）

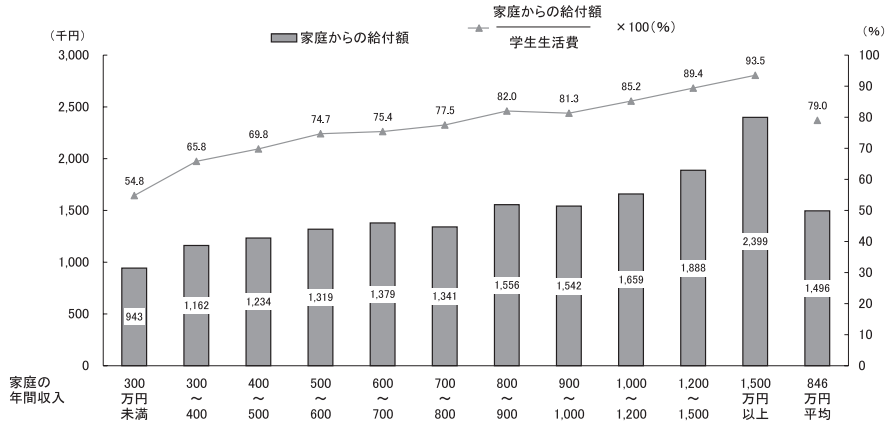
区分		大学 昼間部	大学 夜間部	短期大学 昼間部	短期大学 夜間部	大学院 修士課程	大学院 博士課程	大学院 専門職学位課程
18年度	国立	7,920	6,130	・・・	・・・	7,670	7,220	8,790
	公立	7,400	5,920	6,310	4,900	6,960	7,100	8,140
	私立	8,650	7,150	7,120	5,500	8,630	9,600	8,420
	平均	(0.5) 8,460	(1.3) 6,910	(△7.1) 7,080	(△13.2) 5,390	(△4.0) 7,980	(△3.2) 7,780	8,530
参考	平成16年	(△6.1) 8,420	(△3.1) 6,820	(0.8) 7,620	(△16.1) 6,210	(△6.9) 8,310	(△0.9) 8,040	・・・
	平成14年	(△5.9) 8,970	(△12.9) 7,040	(△8.8) 7,560	(△3.6) 7,400	(△2.6) 8,930	(△12.1) 8,110	・・・
	平成12年	(△0.5) 9,530	(1.2) 8,080	(△2.8) 8,290	(△9.6) 7,680	(0.0) 9,170	(△0.1) 9,230	・・・

（注）（　）は，前回調査に対する伸び率（%）である。

（3）家庭の年間収入別学生生活費に占める家庭からの給付の割合（第５図）

大学昼間部について家庭の収入額と家庭からの給付額の関係をみると，おおむね家庭の収入が高くなるにつれて家庭からの給付額も高く，また，学生生活費に占める家庭からの給付額の割合も高くなっている。

第５図　家庭の年間収入別学生生活費に占める家庭からの給付の割合（大学昼間部）



（４）家庭の収入階層区分別学生数の割合（Ｌ表）

大学昼間部の家庭の年間収入額別学生数の割合を，総務省の家計調査（平成18年）から全国全世帯の45～54歳の世帯主（学生の家庭の世帯主年齢と想定）を抜き出し，五分位階層区分（集計世帯を収入額の低いものから高いものへ順に並べ，その世帯数を５等分したもので，収入額の低いグループから高い方へ順に第Ⅰ～第Ⅴと区分したもの）を推計し，これに今回調査を当てはめて各区分別学生数をみると，国・公立は第Ⅲ五分位に最も高い分布を示しているが，私立は第Ⅳ五分位に最も高い分布を示している。また，国・公・私立ともに第Ⅴ五分位に最も低い分布を示している。

Ｌ表　家庭の収入階層区分別学生数の割合【45～54歳の世帯主】（大学昼間部）

（単位：％）

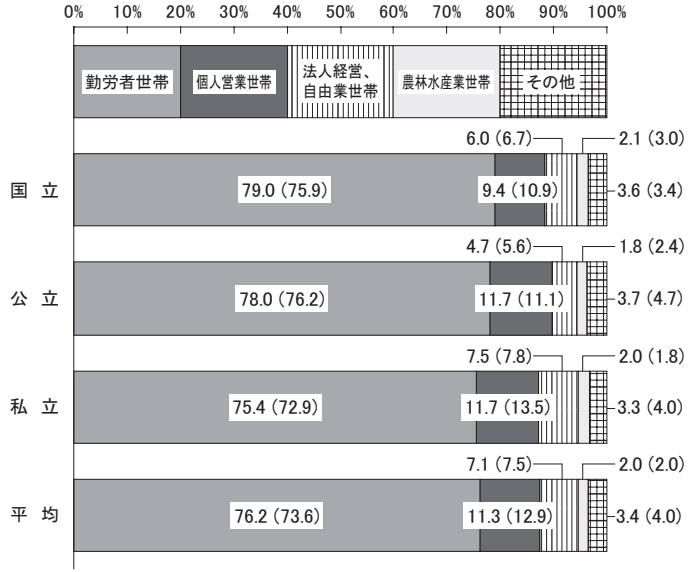
区分	第Ⅰ五分位	第Ⅱ五分位	第Ⅲ五分位	第Ⅳ五分位	第Ⅴ五分位
	千円 （～5,044 ） 4,881 千円未満	千円 （5,044 ～6,934 ） 4,881 千円以上 6,789 千円未満	千円 （6,934 ～8,588 ） 6,789 千円以上 8,495 千円未満	千円 （8,588 ～10,929 ） 8,495 千円以上 10,906 千円未満	千円 （10,929 ～） 10,906 千円以上
国立	(25.8)	(15.0)	(24.4)	(20.8)	(14.1)
	17.1	19.4	29.5	19.3	14.6
公立	(28.9)	(15.2)	(23.1)	(20.1)	(12.7)
	22.6	21.7	27.9	17.0	10.9
私立	(23.1)	(16.0)	(19.3)	(26.5)	(15.1)
	16.1	19.4	20.5	28.3	15.7
平均	(23.8)	(15.8)	(20.4)	(25.2)	(14.8)
	16.6	19.5	22.5	26.2	15.3

（注）（　）は，平成16年度調査の額及び割合である。

（５）主たる家計支持者の世帯区分別学生数の割合（第６図）

大学昼間部の場合，国・公・私立とも勤労者世帯の学生数が多く，75.4～79.0％を占めている。

第６図　主たる家計支持者の世帯区分別学生数の割合（大学昼間部）



（注）（　）は，平成16年度調査の割合である。

４．アルバイトの従事状況

（１）アルバイトの従事状況（Ｍ表，Ｎ表，第７図）

調査時前の１年間にアルバイトに従事した経験を有する者の全学生に対する割合等の状況は，次のとおりである。

①大学昼間部

アルバイト従事者は全学生の76.4％となっており，平成16年度調査と比較して0.4ポイントの減となっている。これらの者の経済状況を示したのが第７図である。「家庭からの給付なし」の者が3.8％，「家庭からの給付のみでは修学に不自由，修学継続困難」な者が42.5％，家庭からの給付のみで修学は可能であるが，アルバイトに従事したとする者が53.8％となっている。

②大学院

アルバイトに従事した経験を有する者は，全学生のうち，修士課程が78.9％，博士課程が77.6％，専門職学位課程が28.7％で，これらのうち，「家庭からの

給付なし」の者がそれぞれ11.4%，39.8%，19.5%，「家庭からの給付のみでは修学に不自由・修学継続困難」な者が48.4%，44.5%，49.5%となっており，修士課程で59.8%，博士課程で84.3%，専門職学位課程で69.0%の者が，修学上やむを得ずアルバイトに従事していることが伺える。

M表　アルバイトの従事状況

（単位：%）

区分			12年度	14年度	16年度	18年度
大学昼間部	アルバイト従事者	家庭からの給付のみで修学可能	46.2	29.7	37.3	41.1
		家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	33.8	47.1	39.6	35.4
		計	80.0	76.8	76.8	76.4
	アルバイト非従事者		20.0	23.2	23.2	23.6
短期大学昼間部	アルバイト従事者	家庭からの給付のみで修学可能	50.5	28.7	32.7	39.8
		家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	24.0	44.2	38.3	31.9
		計	74.5	72.9	71.0	71.7
	アルバイト非従事者		25.5	27.1	29.0	28.3
大学院 修士課程	アルバイト従事者	家庭からの給付のみで修学可能	24.6	21.0	23.8	31.7
		家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	44.2	47.7	44.9	47.2
		計	68.8	68.7	68.8	78.9
	アルバイト非従事者		31.2	31.3	31.2	21.1
大学院 博士課程	アルバイト従事者	家庭からの給付のみで修学可能	5.1	4.9	8.1	12.2
		家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	57.9	58.4	53.9	65.4
		計	63.0	63.3	62.0	77.6
	アルバイト非従事者		37.0	36.7	38.0	22.4
大学院 専門職学位課程	アルバイト従事者	家庭からの給付のみで修学可能	・・・	・・・	・・・	8.8
		家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	・・・	・・・	・・・	19.8
		計	・・・	・・・	・・・	28.7
	アルバイト非従事者		・・・	・・・	・・・	71.3

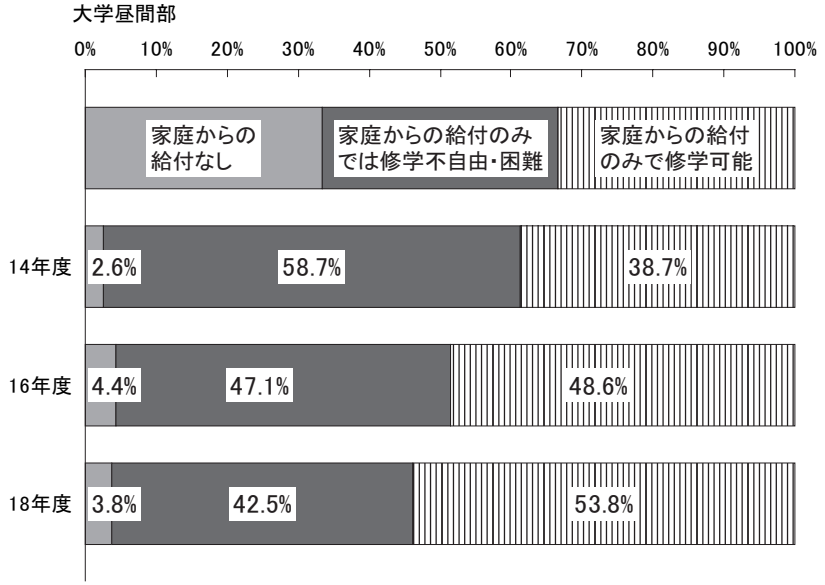
（注）「家庭からの給付のみでは修学に不自由・困難」とは，家庭からの給付がない者を含む。

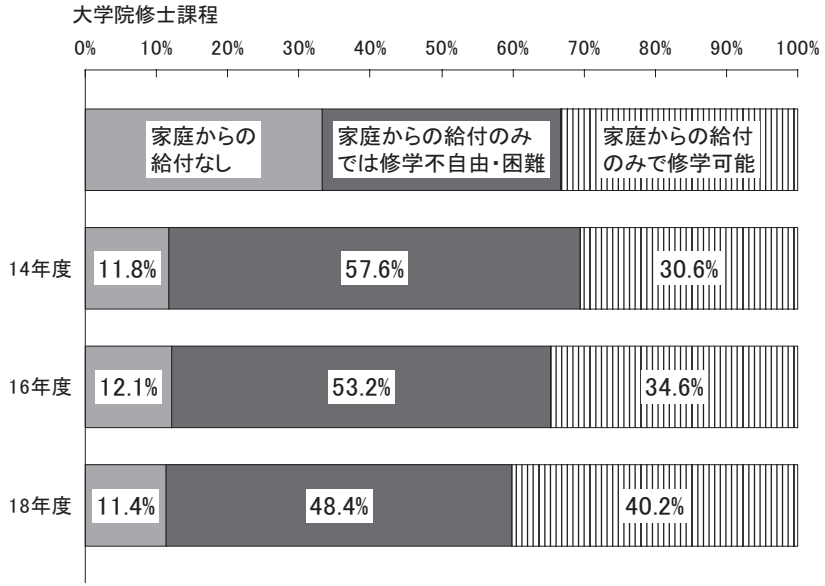
N表　アルバイトの従事者の経済状況

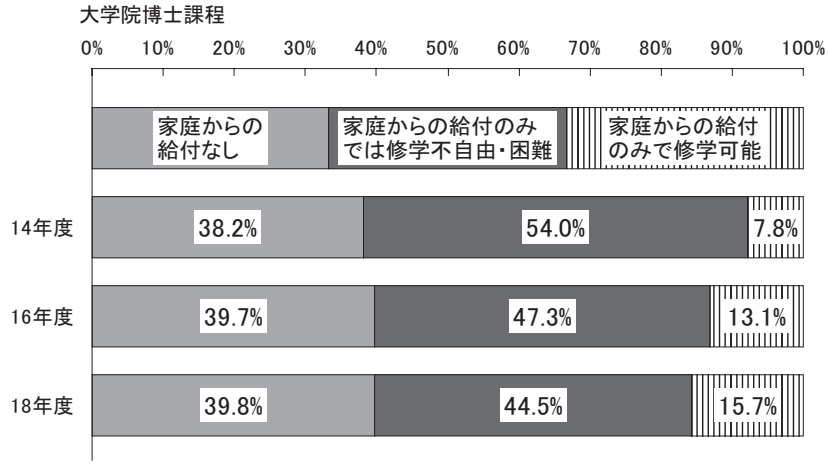
区分			全学生のうちアルバイト従事者	家庭からの給付なし，給付のみでは修学に不自由・困難	家庭からの給付のみで修学可能
大学昼間部		国立	76.4 (75.2) %	46.1 (49.7) %	53.9 (50.4) %
		公立	78.4 (79.5)	50.5 (53.1)	49.4 (46.8)
		私立	76.3 (77.1)	46.0 (51.9)	54.0 (48.1)
		平均	76.4 (76.8)	46.3 (51.6)	53.8 (48.6)
大学院	修士課程	国立	77.8 (66.2)	60.3 (64.2)	39.7 (35.8)
		公立	70.5 (65.1)	64.1 (67.0)	35.9 (33.0)
		私立	81.8 (73.3)	58.6 (66.8)	41.3 (33.2)
		平均	78.9 (68.8)	59.8 (65.3)	40.2 (34.6)
	博士課程	国立	78.1 (60.1)	84.4 (87.9)	15.6 (12.1)
		公立	68.3 (60.7)	89.6 (90.8)	10.4 (9.2)
		私立	78.3 (67.8)	83.1 (84.4)	17.0 (15.8)
		平均	77.6 (62.0)	84.3 (86.9)	15.7 (13.1)
	専門職学位課程	国立	27.8 (・・・)	59.4 (・・・)	41.0 (・・・)
		公立	33.6 (・・・)	54.5 (・・・)	45.5 (・・・)
		私立	28.9 (・・・)	74.7 (・・・)	25.6 (・・・)
		平均	28.7 (・・・)	69.0 (・・・)	30.7 (・・・)

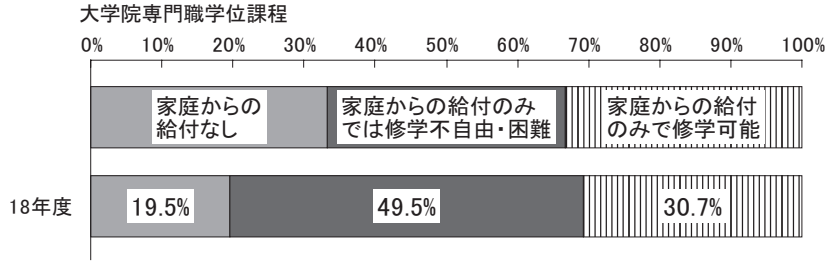
（注）1．「家庭からの給付なし，給付のみでは修学に不自由・困難」，「家庭からの給付のみで修学可能」欄の数字は，72頁（H-1表），108頁（H-1表），109頁(H-2表)，110頁(H-3表）を基に全学生のうちアルバイト従事者を，100とした割合である。
2．（　）は，平成16年度調査における割合である。

第７図　家庭からの給付程度別アルバイトの従事学生の割合の推移









（2）アルバイト従事時期別学生数の割合（O表，第8図）

①大学昼間部

「長期休暇中も授業期間中も従事する者」及び「授業期間中に経常的に従事する者」の合計は76.8%となっている。

②大学院

「長期休暇中も授業期間中も従事する者」及び「授業期間中に経常的に従事する者」の合計は，修士課程が72.1%，博士課程は81.4%，専門職学位課程は51.4%となっている。

（3）アルバイト従事職種別学生数の割合（P表）

アルバイトに従事した職種別の学生数の割合は，P表にみられるように，学校種別によって大きく異なっている。

①大学昼間部等

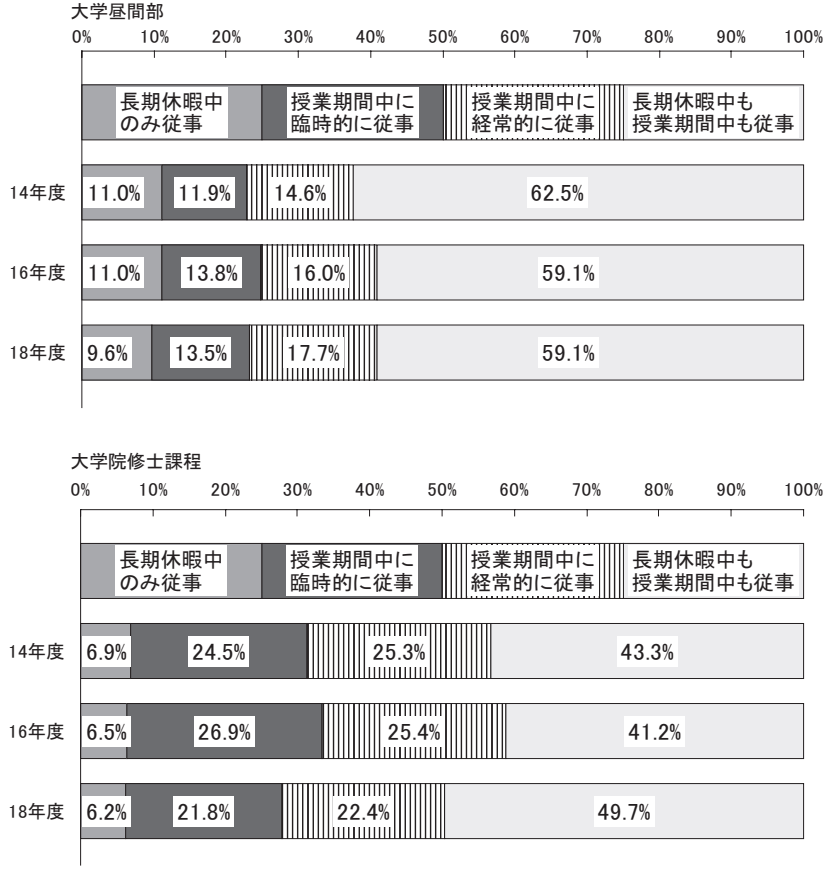
大学昼間部では，軽労働に従事した者の割合が65.9%を占め，次いで家庭教師に従事した者14.6%となっている。

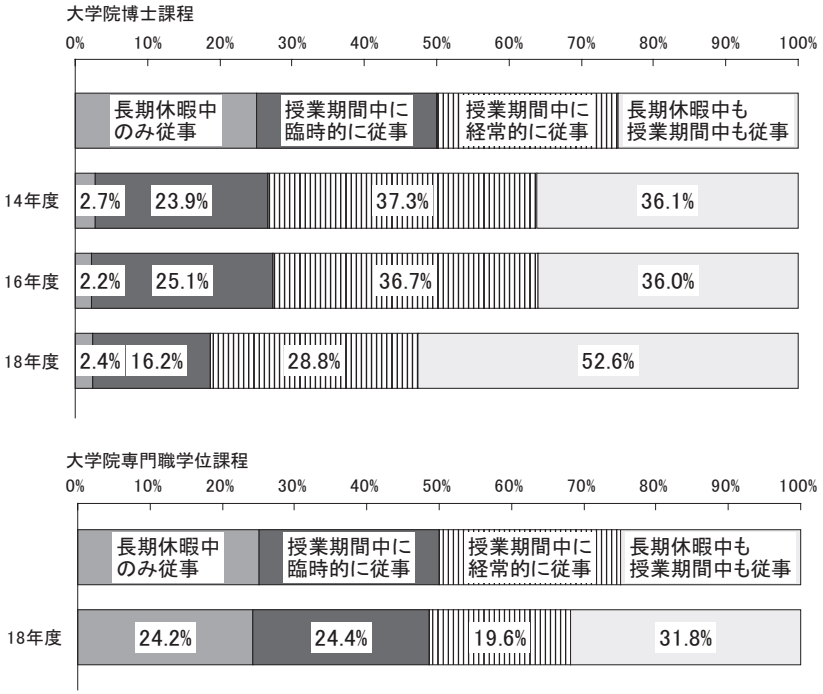
なお，短期大学昼間部では，軽労働に従事した者の割合が79.2%を占めているのに対し，家庭教師に従事した者は2.7%と，大学昼間部に比べ相当低くなっている。

②大学院

修士課程では，軽労働に従事した者の割合が29.2%，家庭教師に従事した者24.5%，事務23.9%，特殊技能・その他20.4%，博士課程では，軽労働に従事した者6.3%，家庭教師に従事した者16.7%，事務33.4%，特殊技能・その他42.8%，専門職学位課程では，軽労働に従事した者25.7%，家庭教師に従事した者26.6%，事務27.8%，特殊技能・その他17.8%などとなっているように，修士課程，専門職学位課程では家庭教師，事務，軽労働に従事する者の割合が高く，博士課程では事務や特殊技能に従事する者の割合が高くなっている。

第8図　アルバイト従事時期別学生数の割合推移





O表　アルバイト従事時期別学生数の割合

区分			長期休暇中のみ従事	授業期間中に臨時的に従事	授業期間中に経常的に従事	長期期間中も授業期間中も従事	
大学昼間部		国立	7.7 (7.9) %	14.8 (13.6) %	18.3(18.9) %	59.1(59.6) %	77.4(78.5) %
		公立	7.9 (9.1)	12.6 (12.4)	17.5(16.2)	62.0(62.4)	79.5(78.6)
		私立	10.2 (11.9)	13.3 (14.0)	17.6(15.4)	58.9(58.8)	76.5(74.2)
		平均	9.6 (11.0)	13.5 (13.8)	17.7(16.0)	59.1(59.1)	76.8(75.1)
大学院	修士課程	国立	5.2 (6.2)	23.0 (28.7)	21.8(23.8)	49.9(41.4)	71.7(65.2)
		公立	6.8 (7.4)	23.1 (25.5)	20.8(24.2)	49.3(43.0)	70.1(67.2)
		私立	7.4 (6.7)	19.7 (24.6)	23.5(27.8)	49.4(40.9)	72.9(68.7)
		平均	6.2 (6.5)	21.8 (26.9)	22.4(25.4)	49.7(41.2)	72.1(66.6)
	博士課程	国立	2.0 (2.0)	16.6 (26.7)	28.1(36.5)	53.3(34.8)	81.4(71.3)
		公立	3.1 (3.1)	22.4 (28.9)	28.3(35.0)	46.2(33.0)	74.5(68.0)
		私立	3.5 (2.7)	14.0 (20.2)	30.7(37.3)	51.7(39.7)	82.4(77.0)
		平均	2.4 (2.2)	16.2 (25.1)	28.8(36.7)	52.6(36.0)	81.4(72.7)
	専門職学位課程	国立	22.4 (・・・)	28.4 (・・・)	16.3 (・・・)	32.9 (・・・)	49.2 (・・・)
		公立	37.0 (・・・)	15.7 (・・・)	26.9 (・・・)	20.4 (・・・)	47.3 (・・・)
		私立	24.5 (・・・)	22.9 (・・・)	20.8 (・・・)	31.8 (・・・)	52.6 (・・・)
		平均	24.2 (・・・)	24.4 (・・・)	19.6 (・・・)	31.8 (・・・)	51.4 (・・・)

（注）（　）は，平成16年度調査における割合である。

P表　職種別アルバイト学生数の割合

（単位：%）

区分		家庭教師	事務	軽労働	重労働危険作業	特殊技能その他	計
大学昼間部		(16.5) 14.6	(6.8) 6.6	(64.0) 65.9	(3.2) 3.1	(9.5) 9.8	100.0
男		(15.8) 14.3	(5.2) 6.1	(63.7) 64.4	(5.4) 5.1	(9.9) 10.1	100.0
女		(17.4) 14.8	(8.6) 7.2	(64.4) 67.6	(0.7) 0.8	(9.0) 9.5	100.0
短期大学昼間部		(3.1) 2.7	(5.0) 3.0	(77.8) 79.2	(1.3) 1.3	(12.8) 13.7	100.0
大学院	修士課程	(31.3) 24.5	(11.5) 23.9	(31.5) 29.2	(1.9) 1.9	(23.9) 20.4	100.0
	博士課程	(26.3) 16.7	(9.8) 33.4	(8.6) 6.3	(1.1) 0.7	(54.2) 42.8	100.0
	専門職学位課程	(・・・) 26.6	(・・・) 27.8	(・・・) 25.7	(・・・) 2.1	(・・・) 17.8	100.0

（注）1．軽労働とは，包装，箱詰，選別，整理，封入，発送等である。
2．（　）は，平成16年度調査の割合である。

5．奨学金の受給希望及び受給状況

（1）学校種別の奨学金受給希望・受給状況（第９図）

奨学金の受給希望の状況及び受給者（日本学生支援機構，地方公共団体，民間団体，学校からの奨学金受給者をいう。）の割合をみると，第９図のとおりとなっている。

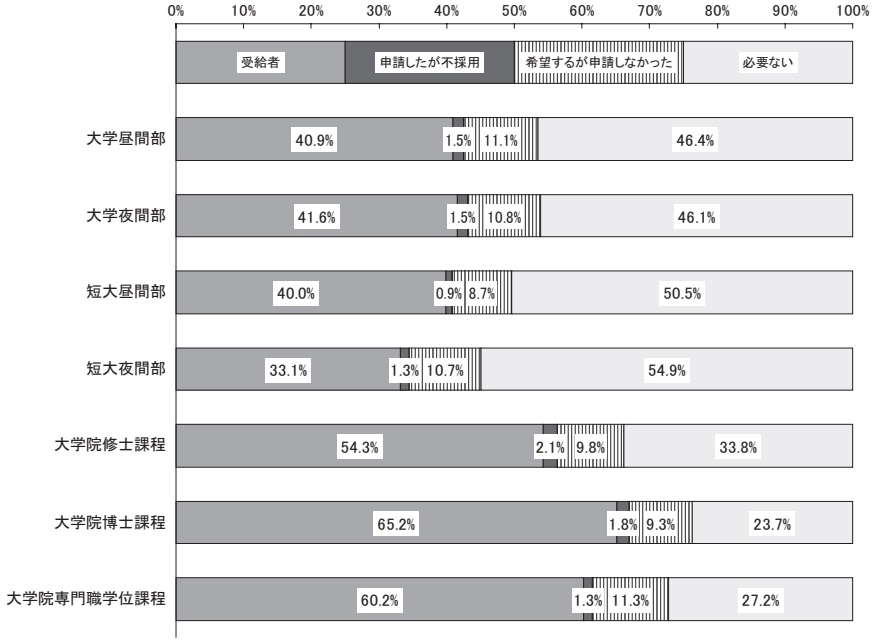
①大学昼間部

奨学金受給者は40.9%，申請したが不採用となった者は1.5%であり，両者を合わせた42.4%の者が奨学金受給希望者といえる。さらに「奨学金の受給を希望するが申請しなかった」いわゆる潜在的な奨学金受給希望者が11.1%あり，これらを含めると，全学生数の約半数以上の者が奨学金の受給を希望していることとなる。

②大学院

奨学金受給者は，修士課程が54.3%，博士課程が65.2%，専門職学位課程が60.2%となっており，大学昼間部の40.9%に比べ高くなっている。

第９図　学校種別の奨学金受給希望・受給状況



（2）設置者別の奨学金受給希望・受給状況（第10図，K-1表，K-2表，K-3表）

全学生に対する奨学金受給者の割合を設置者別にみると，第10図のとおりである。

①大学昼間部

奨学金受給者の割合は，公立が最も高く45.5%で，以下国立41.9%，私立40.4%の順となっている。また，奨学金の申請者に対する受給者の割合は，国立95.2%，公立95.4%，私立96.9%となっている。

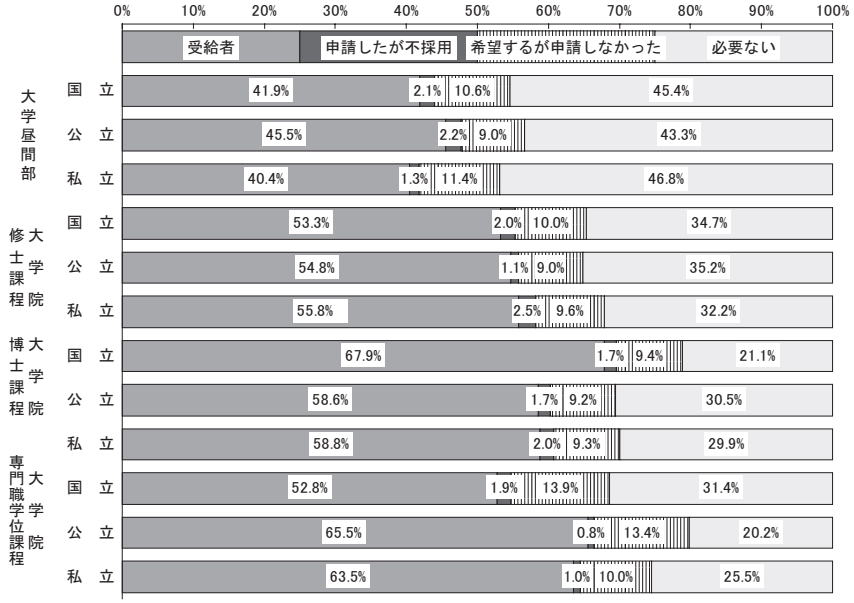
②大学院

修士課程の奨学金受給者の割合は，私立が最も高く55.8%で，以下公立54.8%，国立53.3%の順となっている。なお，奨学金の申請者に対する受給者の割合は，国立が96.4%，公立が98.0%，私立が95.7%となっている。

博士課程の奨学金受給者の割合は，国立が最も高く67.9%で，以下私立58.8%，公立58.6%の順となっているが，奨学金の申請者に対する受給者の割合は国立が97.6%，公立97.2%，私立96.7%となっている。

専門職学位課程の奨学金受給者の割合は，公立が最も高く65.5%で，以下私立63.5%，国立52.8%の順となっている。なお，奨学金の申請者に対する受給者の割合は，国立が96.5%，公立が98.8%，私立が98.4%となっている。

第10図　設置者別の奨学金受給希望・受給状況

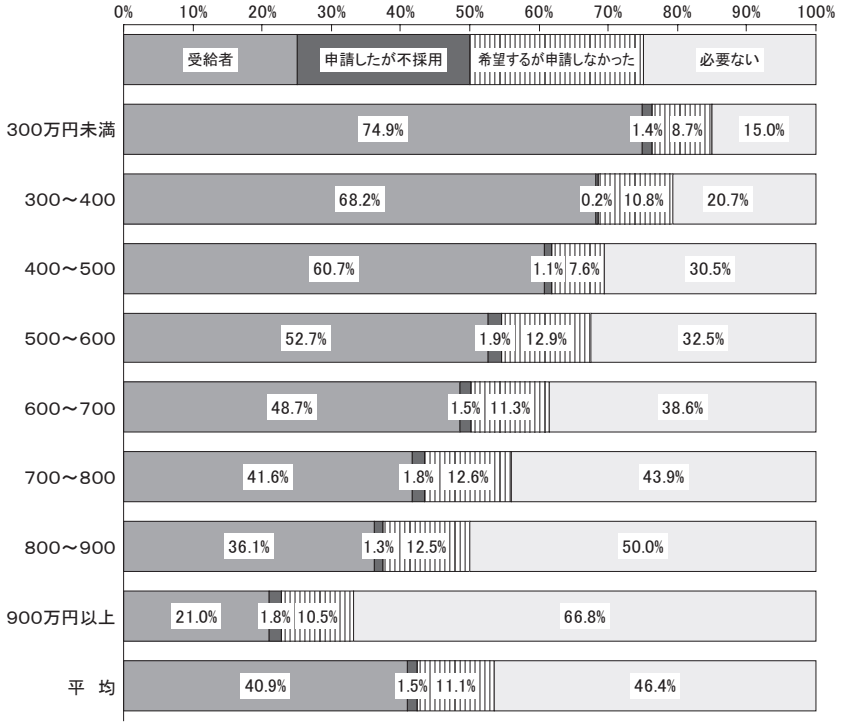


（３）家庭の所得階層別の奨学金受給希望・受給状況（第11図）

大学昼間部の家庭の所得階層別の奨学金受給希望及び受給状況をみると，第11図のとおり，学生の家庭の所得が高くなるにつれて奨学金受給者の割合は小さくなる傾向を示している。

なお，「奨学金の受給を希望するが申請をしなかった」いわゆる潜在的な奨学金希望者は，家庭の所得の高低にかかわらず，全所得階層にわたりほぼ一定の割合を占めている。

第11図　家庭の所得階層別の奨学金受給希望・受給状況（大学昼間部）



（４）奨学金の種類別・設置者別受給状況（第12図）

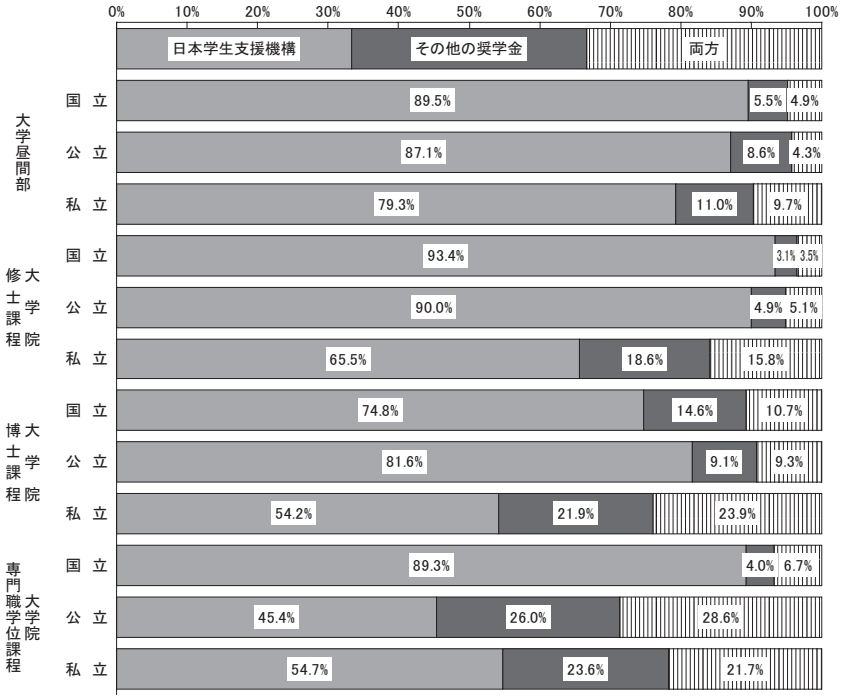
奨学金の種類別受給状況を設置者別にみると第12図のとおりである。

①大学昼間部

日本学生支援機構の奨学金受給者（日本学生支援機構以外の奨学金と両方を受給している者を含む。以下同じ。）の割合は，国立が最も高く94.4%，次いで公立91.4%，私立89.0%の順となっている。

一方，日本学生支援機構以外の奨学金受給者（日本学生支援機構の奨学金と両方を受給している者を含む。以下同じ。）の割合は，逆に私立が最も高く20.7%，次いで公立12.9%，国立10.4%の順となっている。

第12図　奨学金の種類別・設置者別受給状況



②大学院

日本学生支援機構の奨学金受給者の割合は，修士課程と専門職学位課程では国立が最も高く，それぞれ96.9%，96.0%，博士課程では公立が最も高く 90.9%となっている。

一方，日本学生支援機構以外の奨学金を受給している者の割合は，修士課程，博士課程では私立が最も高く，それぞれ34.4%，45.8%，専門職学位課程では公立が最も高く54.6%となっている。

6．居住形態別・地域別通学時間（Q表）

①大学昼間部

居住形態別にみると，自宅通学者の片道通学時間は約70分となっており，学寮通学者の約14分や下宿等通学者の約17分を大きく上回っている。

地域別にみると，東京圏は約55分，京阪神は約54分で，その他の地域の約33分に比べ通学時間が大きく上回っている。

Q表　居住形態別・地域別通学時間（片道通学時間）

（単位：分）

区分			自宅	学寮	下宿、アパート、その他	平均
大学学部	昼間部	東京圏	76.7	22.4	24.5	54.5
		京阪神	77.9	11.7	18.0	53.6
		その他	60.0	9.0	12.6	33.2
		全国	70.2	14.2	17.1	44.3
大学院	修士課程	東京圏	74.5	32.7	28.3	53.4
		京阪神	73.1	17.5	19.3	43.9
		その他	54.3	9.6	14.3	27.4
		全国	66.2	15.4	18.7	38.6
	博士課程	東京圏	70.8	29.3	33.1	52.0
		京阪神	72.1	14.9	22.3	43.0
		その他	60.7	10.5	21.0	35.2
		全国	66.7	16.1	24.5	41.9
	専門職学位課程	東京圏	66.1	17.6	39.1	55.1
		京阪神	67.9	12.7	20.0	47.5
		その他	53.1	14.0	16.5	32.6
		全国	63.9	16.2	25.7	46.9

＊「東京圏」とは、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県をいう。
「京阪神」とは、京都府・大阪府・兵庫県をいう。

②大学院

居住形態別にみると，修士課程，博士課程，専門職学位課程のいずれも自宅通学者の片道通学時間は，学寮通学者や下宿等通学者の通学時間を大きく上回り，それぞれ約66分，67分，64分となっている。

また，地域別にみると，修士課程，博士課程，専門職学位課程のいずれも東京圏，京阪神はその他の地域に比べ通学時間が大きく上回っている。

7．週間平均生活時間（R表）

大学昼間部について週間平均生活時間をみると，設問項目のうち，一週間の生活時間の中で最も多く費やすのは「大学の授業」となっている。

設置者別にみると，国・公・私立のいずれも「大学の授業」が最も多く，その時間はいずれも約18時間強となっており，国・公・私立別の差はみられない。

R表　設置者別週間平均生活時間

（単位：時間）

区分			大学の授業	授業関連の学習（予習・復習）	授業外の学習	文化・体育等のサークル活動	アルバイト等の就労活動
大学	昼間部	国立	18.79	7.40	6.96	5.88	8.33
		公立	18.75	7.04	5.52	4.44	10.01
		私立	18.66	6.11	4.57	6.94	10.31
		平均	18.69	6.39	5.05	6.64	9.93

（注）平成18年11月における不特定な一週間を調査。

ⓐ表　居住形態別・設置者別の学生生活費

区分			自宅			下宿、アパート、その他	下宿、アパート、その他		全居住形態平均		
			学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計
大学昼間部		国立	699,900円 (2.3%)	345,200円 (△5.1%)	1,045,100円 (△0.3%)	637,900円 (2.2%)	1,131,100円 (△5.0%)	1,769,000円 (△2.6%)	654,100円 (2.6%)	846,800円 (△6.2%)	1,500,900円 (△2.6%)
		公立	716,000 (2.8%)	347,200 (1.6%)	1,063,200 (2.4%)	629,200 (△1.2%)	1,006,400 (△8.9%)	1,635,600 (△6.1%)	665,500 (0.9%)	730,700 (△8.9%)	1,396,200 (△4.5%)
		私立	1,316,700 (△0.3%)	401,200 (△4.7%)	1,717,900 (△1.4%)	1,346,300 (2.6%)	1,120,900 (△5.1%)	2,467,200 (△1.0%)	1,323,200 (0.1%)	694,000 (△6.2%)	2,017,200 (△2.2%)
		平均	1,226,100 (△0.3%)	393,000 (△4.7%)	1,619,100 (△1.4%)	1,117,600 (2.3%)	1,116,900 (△5.3%)	2,234,500 (△1.6%)	1,171,300 (0.2%)	723,800 (△6.3%)	1,895,100 (△2.4%)
大学院	修士課程	国立	718,800 (2.6%)	458,800 (1.6%)	1,177,600 (2.2%)	616,400 (1.5%)	1,255,700 (△4.9%)	1,872,100 (△2.9%)	646,300 (2.5%)	996,300 (△5.1%)	1,642,600 (△2.2%)
		公立	747,500 (1.3%)	434,900 (△2.3%)	1,182,400 (△0.1%)	665,400 (4.2%)	1,221,100 (△4.4%)	1,886,500 (△1.5%)	698,900 (3.3%)	843,600 (△6.7%)	1,542,500 (△2.5%)
		私立	1,111,600 (0.4%)	475,500 (3.4%)	1,587,100 (1.3%)	1,069,700 (3.9%)	1,319,700 (△2.2%)	2,389,400 (0.4%)	1,091,700 (1.9%)	859,700 (△1.6%)	1,951,400 (0.3%)
		平均	914,600 (0.4%)	465,400 (2.2%)	1,380,000 (1.0%)	748,500 (2.5%)	1,272,200 (△4.1%)	2,020,700 (△1.8%)	811,700 (2.0%)	938,100 (△4.0%)	1,749,800 (△1.3%)
	博士課程	国立	815,700 (2.6%)	770,800 (11.7%)	1,586,500 (6.8%)	685,500 (3.1%)	1,533,500 (△2.6%)	2,219,000 (△0.9%)	721,900 (3.6%)	1,295,000 (△1.8%)	2,016,900 (0.1%)
		公立	867,900 (△1.0%)	769,500 (13.2%)	1,637,400 (5.2%)	744,000 (△1.2%)	1,488,500 (△20.5%)	2,232,500 (△14.9%)	794,700 (△0.1%)	1,158,800 (△17.5%)	1,953,500 (△11.2%)
		私立	1,112,000 (3.0%)	763,900 (12.7%)	1,875,900 (6.7%)	997,500 (2.0%)	1,678,400 (△7.5%)	2,675,900 (△4.2%)	1,050,200 (2.8%)	1,250,100 (△5.8%)	2,300,300 (△2.1%)
		平均	917,300 (2.3%)	768,400 (12.1%)	1,685,700 (6.6%)	750,200 (2.2%)	1,560,400 (△4.7%)	2,310,600 (△2.5%)	804,200 (3.0%)	1,277,200 (△3.6%)	2,081,400 (△1.1%)
	専門職学位課程	国立	966,800	592,000	1,558,800	885,500	1,402,700	2,288,200	908,900	1,092,200	2,001,100
		公立	843,200	507,300	1,350,500	837,800	1,439,300	2,277,100	841,200	851,800	1,693,000
		私立	1,561,300	543,000	2,104,300	1,496,400	1,500,600	2,997,000	1,530,200	936,700	2,466,900
		平均	1,412,100	553,000	1,965,100	1,235,400	1,459,500	2,694,900	1,322,400	983,600	2,306,000

（注）（　）は、平成16年度調査からの伸び率である。